



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 横浜市青葉区

2006年度定時総会開催のご案内

2006年度の定時総会を下記の通り開催いたします。総会の後は、引き続き会員の懇親会を行います。是非ご参加ください。

記

日 時 2006年5月21日（日）14：30

会 場 かながわ県民活動サポートセンター 7階711号室

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2（横浜駅西口徒歩5分）TEL 045-312-1121

- 議 題
1. 2005年度活動報告と決算
 2. 2006年度事業計画と予算案
 3. 新役員の紹介

コンデ前駐日大使より礼状届く

ハビエル・コンデ前駐日スペイン大使が、去る2月18日任期を終えられ帰国されました。これに先立ち、当協会ではコンデ大使に、日本の記念として、桜の花が描かれた蒔絵の万年筆を贈呈しましたところ、写真のような礼状が会長宛に届きました。



拝啓

解氷の候、貴協会ますますのご盛栄のこととお喜び申し上げます。

本日は、ご多忙中のところ、会長、副会長みずから大使館までわざわざお越し頂き、とても美しい蒔絵の万年筆をお届け頂きありがとうございました。

また、私が着任したときにお話した聖フランシスコ・ザビエル生誕500年記念につき、一連の記念コンサートを準備されたとのこと、心から嬉しく思います。昨年の15周年記念行事に続き、下山会長のご指導のもと、横浜スペイン協会が益々活発な親善活動を展開していかれますよう祈念します。

敬具

* 聖フランシスコ・ザビエル生誕500年記念コンサートの詳細については、別記事をご参照ください。

堂ヶ島温泉ホテルで新年会

去る1月21日（土）2006年の新年会が堂ヶ島温泉ホテルにおいて開催されました。

新年会に先立ち、東京経済大学コミュニケーション学部 荻内勝之教授の「ドン・キホーテ」と題する講演、次いで、同教授が訳された「ドン・キホーテ」を女性講師田辺一凛^{りん}さんが語り、難しいテーマを、全く飽きさせることない講演と異色の講談との組み合わせに、参加者全員聞き入りました。

その夜は大広間で新年の宴会があり、参加者が持ち寄ったプレゼントの交換会などがあり、楽しいひとときを過ごしました。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●2006年5月のスペイン・サロン

5月のサロンはガリシアから赴任されて目の浅いクララ・サンチェスさんに、サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼のみならず、ケルトの伝承や、歴史、文化、教育等について語っていただきます。ガリシアのワインもお楽しみ下さい。

日 時：2006年5月20日（土）14:00～16:00

場 所：横浜市民活動支援センター4階研修室1 横浜市中区桜木町1-1-56 TEL 045-223-2666

テーマ：「ガリシア」

講 師：クララ・サンチェスさん（スペイン・ガリシア州自治政府情報調査担当）

＊通訳：栗山由美子

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

☎問合せ先：山崎宗城

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●1月のスペイン・サロン「ドン・キホーテ」 講師：荻内 勝之氏（東京経済大学教授）

2006年最初のスペイン・サロンは、西伊豆海岸・堂ヶ島温泉ホテルで開催された協会の新年会のプログラムの一つとして行われました。



▲講演中の荻内先生

去年はドン・キホーテ（前編）出版400年目の記念すべき年。この年に荻内先生の新しい日本語訳の「ドン・キホーテ」が、出版されました。そこで先生にこの訳書についてお話していただきました。

先生は自らの生い立ちと家庭環境、先生の育った時代背景にも絡み、これまで日本で出版されてきたドン・キホーテの日本語訳に飽きたらず、日本の伝統文化と日本人の精神性に訴える文学的価値のある日本語訳にこだわったことを話されました。

ドン・キホーテ出版400年を記念するさまざまな催しは、スペイン本国で、国を挙げて多くの試みがあり、首都のマドリードやドン・キホーテの舞台のラ・マンチャの村々などで一年を通してのプログラムがあったということです。

たとえば一冊70ユーロもするドン・キホーテの新刊本がスペイン国内で700部も売れたこと、政府文部省出版の紹介本が全国的に無料で配布されたとのこと。また、スペインの国民文学史上のドン・キホーテの再評価は非常に大きいことの紹介もされました。

講演に引き続き会場に作られた高座で、講師田辺一凛嬢による「暁



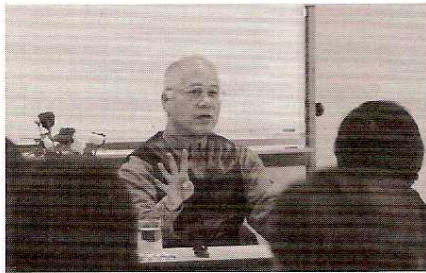
▲気合満点、田辺一凛講師

の決闘」(ドン・キホーテ後編上第14章「森の騎士の活躍が続く」)が演じられました。これは名声天下に轟く騎士ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャを一騎打ちでうち倒したと語る森の騎士(実はドン・キホーテと同郷の予科学士サンソン・カラスコ)とやつれ顔の騎士ドン・キホーテとの一騎打ちの場面にサンチョ・パンサと鏡の騎士の従者トメ・セシアールが絡む場面で、短いながらも熱の入ったドン・キホーテ物語の一節が堪能出来ました。(山崎宗城)

●2月のスペイン・サロン「わが心のスペイン」 講師：逢坂 剛氏(作家)

日時：2月18日(土) 14:00～16:00

会場：横浜市社会福祉センター(桜木町駅前)9階 大会議室C



▲熱のこもった逢坂剛氏の講演

作家逢坂剛氏は1980年「暗殺者グラナダに死す」で第19回オール読物推理小説新人賞受賞、1987年「カディスの赤い星」で第96回直木賞を受賞され、その後今日まで推理作家として多くスペインを舞台とした作品を書かれてきました。

逢坂氏は先ず自分の子供時代の話の中で、父親が時代小説の挿し絵画家であり、直木三十五の小説の挿し絵を描いていたことを思うと、氏が43歳で直木賞を受賞したことが何か不思議な思いがすること、父親が喜んでくれたことを披露されました。

また、氏の二人の兄の話、開成高校時代からの友人の話、数学が苦手な数学科目のない大学として選んだ東京外語大学、早稲田大学入試の失敗談、中央大学法学部へ入学したいきさつ、当時既に小説を書いていた友人の批評を得ていたなどの学生時代の愉快な話をされました。

ギター歴については、ナルシソ・イエペスの「禁じられた遊び」の演奏に触発されたこと、イエペスによるバッハのシャコンヌのすばらしさを知り、テープを聞きながら採譜をした思い出、フラメンコについては、サビーカスのギターをバックに歌われるカンテの妙に夢中になったこと、そんな背景の中、神田にある博報堂に勤務しながら休みを取って1971年秋、スペインを訪れタブラオでフラメンコを聴きまくった思い出などを話されました。

氏はスペインへ何回となく訪れるのですが、1974年、2回目に訪れたコルドバへの車中でお弁当のボカデージョを分けてくれた老人へ、日本から写真を送ったことから始まった老人の孫娘カルメンとの出会い、そしてカルメンの家族からの温かいもてなしは、当時コルドバでは日本人がまだ珍しいこともあって、カルメンの家では親戚一同が集まって氏を迎えた愉快的話と共に、氏の心をスペインがとらえていった経緯を語られました。(山崎宗城)

●3月のスペイン・サロン「スペイン・ゴシックの大聖堂・造形上の特質と象徴的意味」

講師：小倉 康之氏(横浜美術短期大学・早稲田大学エクステンションセンター講師)

日時：3月18日(土) 14:00～16:00

会場：横浜市市民活動支援センター4階・研修室1



▲独自の視点を展開する小倉先生

ゴシック建築は現在のフランス及びドイツがその起源であり特にイルド・フランスが初期の様式の確立に重要な役割を果たしたと言うのが一般的な定説になっていますが、その基本的ないくつかのエレメントはそれ以前の時代にそれぞれ使用されていたものを集大成して完成したものであると、小倉先生は主張され、その歴史上の事実を裏付けるため、ゴシック様式の完成に至るフランス、スペインの各地の教会建築の写真を使い、歴史上の出来事に沿って、地図を参照しながら実証して行きました。

ゴシックに限らずあらゆる文化・文明はそれ以前に確立された技を土台として取り込みながら、その上に新たな技を取り入れて発達していくもので、フランスに完成されたゴシックは、宗教的にも建築学上でも上述の技術と文化の上に完成され、それがその後、逆の経路を辿りながらスぺ

インのブルゴス大聖堂、レオン大聖堂、バルセローナ大聖堂の建築に影響を与え、スペイン教会建築の特徴である聖職者席やイスラム建築上の透し彫りや、石造り星形ヴォールトを取り込み建築されたとのこと。

ゴシック以前に完成された、石製の丸天井とゴシック建築の尖頭ヴォールトについては、地中海民族及びイスラムにとっての天空のイメージと、森の民と呼ばれるゲルマン、フランク族達のイメージの違い、前者にとって天空とは、円型のセレストアであるのに対し、後者にとっては森の木々の間から垣間見る蒼窮であると考えられるとのこと。ステンド・グラスは太陽の光の弱い欧州北部に適した材料であり、スペインのような強い光線の土地では、その荘厳な光の効果は期待できず、イスラムのモスクやイベリア半島の教会建築では窓を比較的小さく採り、内部はむしろ彫刻、透し彫りによる装飾が主であること、大聖堂のファサードもフランスやドイツのものとは比べ平面性、水平性に重点を置き、鐘の勾配も緩やかになって、降雪の多いフランス北部やドイツとは異なるということです。

そこには歴史性と共に、スペインやイスラム諸国の気候・風土が人々の意識に違いを与えているものと想像されます。イスラムとキリスト教勢力の対峙、教皇や国王の政治的意図、信仰への高揚、経済状況の好転を背景とするサンチアゴ・デ・コンポステーラへの大巡礼を迎える大聖堂の建築様式まで、西欧中世史の教会建築を核にした講座でした。(山崎宗城)

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪「スペイン音楽サロン」へのお誘い♪♪

—ザビエル生誕500年記念コンサート開催のお知らせ—

2006年は日本にキリスト教をもたらした、また日本に初めてやってきたスペイン人、フランシスコ・ザビエルが生まれてちょうど500年の記念の年に当たります。そこで、当協会では(NPO)日本ルネッサンス協会などと協力し、2006年6月と9月の2回、2007年1月に1回合わせて3回、慶応義塾大学講師の今谷和徳先生のお話を交えながらのコンサートを開催します。

通常ではあまり聴くことのできない音楽を楽しむことができますので、ぜひともおでかけください。

◆第一夜 「ザビエルの時代の音楽」

2006年6月22日(木) 19:00開演(18:30開場)

◆第二夜 「ビウエラ曲集」

2006年9月21日(木) 19:00開演(18:30開場)

◆第三夜 「ザビエル時代のミサ曲」

2007年1月25日(木) 19:00開演(18:30開場)

会 場：聖パウロ教会(東急東横線 祐天寺駅下車 徒歩5分)

入場料：会員1,000円 一般2,000円

チケット取り扱い・問い合わせはミュージック・オフィス・田島まで。

TEL 090-3518-8476 e-mail: music.o.tajima@beach.ocn.ne.jp

♪3月のスペイン音楽サロン……中世スペイン音楽を横浜で

好天に恵まれた3月25日、ザビエル生誕500年記念文化活動の一環として、中世スペイン音楽のユニークなコンサートがベーリックホールにおいて開催されました。

ベーリックホールはスパニッシュスタイルを基調とした建物で、その窓を元町公園に咲きそめた桜が彩る、またとない背景で、ジョングルール・ボン・ミュージシャンという若い日本人からなる音楽集団が、情熱を込めて中世の放浪楽師の演奏スタイルを披露しました(注・ジョングルールとはフランス語で放浪楽師の意味)。

まずさまざまな種類の古楽器の説明から始まり、修道士姿の楽師が朗々と物語の口上を述べ、楽劇が繰り

広げられました。現代の楽師達は国立音大出身の本格派、音程も確かにバリトン辻康介、バグパイプ・ハーディガーディ近藤治夫の伴奏に、時空を超えて中世スペインの時代に思いを馳せました。

プログラムの前半はスペインを訪れた吟遊詩人（トルバドール）たち（12～13世紀フランス）の中からモンタランドン（修道士、私の歌を姫様に捧げましょう他4曲。後半は、アルフォンソ賢王（編）「聖母マリアのカンティガ」より（13世紀末スペイン）兎の骨他5曲。中でも「怒ったマリア」の寸劇では大いに笑いを誘われ、立見席も出る盛況のうちに幕を閉じました。（船山晴子）



スペインへスケッチ旅行のお誘い！



絵画教室がはじまって今年で3年になります。そこで、絵画教室では島津画伯のモチーフであるアンダルシアへ、島津画伯と一緒に下記の通りスケッチ旅行を予定しています。

一ヵ所滞在で、小さなホテルを貸し切るスタイルです。絵を描かれない方でも、スペインへのロング・ステイを考えておられる方には、テスト滞在として最適と思われます。ぜひご参加ください。

- ◆旅行期間：2006年10月16日～10月30日（15日間）
- ◆旅行費用：385,000円（予定価格）
- ◆参加者数：先着16名限定
- ◆宿泊ホテル：Hotel la Luna Blanca（Torremolinos）原則として毎朝夕の2食付
- ☎問合せ先・申し込み先：太陽海外航空（株） 担当：日野

TEL 03-3281-2441 e-mail : sun-rise@lares.dti.ne.jp

▶▶▶ スペイン語教室のご案内 ◀◀◀

教室名	レベル*	回数	曜日**	授業時間
アマポーラ	初級-I	月3回	月曜日	10:30～12:00
マルガリータ	初級-II	月3回	月曜日	13:15～14:45
カメリア	初級-II	月3回	月曜日	13:00～14:30
アスセナ	中級	月3回	月曜日	14:45～16:15
ビオレタ	初級-III	月3回	水曜日	10:30～12:00
ヒラソル	中級（作文・会話）	月3回	水曜日	10:30～12:00
クラベル	初級-III	月3回	水曜日	13:15～14:45
ロサ	入門	月3回	水曜日	13:15～14:45
マグノリア	中級（文法・会話）	月3回	土曜日	10:30～12:00
新聞・雑誌を読む会	上級	月1回	第4土曜日	10:15～11:45

* 授業のレベル、教科書等については見学した教室でお訊ね下さい。

** 原則として、毎月、第1、第2、第3のそれぞれの曜日です。

会員投稿

新年会に参加して

武信 孝雄

入会一年で親しい方もいない初めての新年会に参加するに当たっては、少なからず不安もありましたがそんな不安も、参加してみていっぺんに解消し、打ち解けることができました。ことに『「スペイン料理を楽しむ会」でお会いしました』と声をかけてくださった方、熱心に協会のことを話してくださった方々には、この場を借りてお礼を申し上げます。

見晴らしのいい温泉にゆったりと浸かった後、6時から始まった新年会は下山会長の挨拶で始まりました。

次いで講談師田辺一凛さんの音頭で、創立15周年記念行事の際に山形スペイン友好協会からいただいたという珍しいお酒での乾杯を行ったのち、昨年暮れに入会された同ホテルの女将さんから堂ヶ島や当日の料理の紹介がありました。

すばらしい料理と美酒に酔いしれるのも束の間、持ち寄ったプレゼントの交換会が行われ、和気あいあいのうちに新年会はお開きとなりました。

参加の皆様は各部屋で楽しく過ごされたことと思いますが、私たちの部屋では、それからが大変でした。同室の荻内先生、飯塚副会長、山崎理事各氏のまるでセミナーの分科会とも思えるようなスペインの文化、地理、宗教、食の話がごく自然に話され、気がついた時は、既に深夜でした。

翌日の朝には、昨晚の続編として、スペイン語、特に、ガリシア語談議に及びました。スペインには物見ぐさにあちこち旅行はしましたが、スペインのことにいたって無知な私にとっては、聞くこと全てが新鮮で大変いい勉強になりました。

少し不安のあった参加でしたが、大変いい経験をさせていただいたと感謝しております。

目下、スペインのことを少しでも知らなければと思い、遅まきながらドン・キホーテなど読み始めました。



▲和気あいあいの新年会

会員投稿

新訳「ドン・キホーテ」を読んで

寺原 瑛子

昨年ドン・キホーテ（前編）出版400周年ということで、もう一度この世界文学に挑戦しようと古い文庫本を開いたのですが、変色した紙に小さな活字、そしてたくさんの「注」にうんざりし、途中放棄していました。そんな時に荻内勝之先生による新訳の「ドン・キホーテ」出版という朗報でした。この新しい翻訳本は、当協会の新年会で田辺一凛さんが講談調で朗読されたことで分かるように、耳で聞いても楽しいほど、文章が流暢で分かりやすく出来ています。私もさっそく読んでみたのですが、面白いようにすらすら読めて、一気に読み終わりました。おかげで大作を読んだ達成感をいとも簡単に味わったのです。

さて、この有名な文学作品、誰でもご存知、騎士道物語の読みすぎで狂ったドン・キホーテの奇想天外な冒険物語ですが、ドン・キホーテが冒険の度に叩きのめされてさんざん傷つく事が多く、私はあまり笑って読むことが出来ません。ところが不思議なことに、ドン・キホーテは息絶え絶えの瀕死状態になっても、なぜか良くしゃべるのですね。本の中ではドン・キホーテとサンチョが長々と対話し、理想主義と現実主義やらを対比させる場面や、ドン・キホーテが狂人とは思えないほど格調高く文学論や人生論を饒舌に語る場面がなんと多いことでしょう。確かに、そこがこの本の文学的価値を高めるところなのでしょう。でも正直ちよっと長たらくして、私には読むのに我慢がいらいます。

それより私がこの本で面白く思うのは、主人公ではない他のいろいろな登場人物が語る挿入的な話です。それぞれが独立した短編小説にもなりそうですが、それらの中にセルバンテスの人生のめずらしい体験や、彼の時代の社会風景がよく映し出されていて興味深いのです。例えば「アルジェより帰還せる捕虜の回想」（39～40章）などは、セルバンテス自身が経験したアルジェでの捕虜生活がなければ生まれない話でしょう。脱走劇のスリル感が伝わります。またカルデニオ、ルシンダなど4人の男女の入り組んだ恋の物語をはじめ、驚くほどたくさんの恋愛物語が挿入で出てきますが、そこに垣間見る中世の愛の形にも興味がそそられます。

新訳の「ドン・キホーテ」なら、難しい文学論を振りかざさなくても、自分なりの読み方で、面白いスペインの時代小説として読んでみる事が出来そうな気がします。

中世スペインの音楽を聴いて

松本 益代

「ジョングルール・ボン・ミュージシャン」コンサート

ジョングルール・ボン・ミュージシャンのコンサートはユニークなものでした。

ごろごろと床に置かれていた素朴で小型のいくつかの楽器が、ひとたび彼らの手で演奏されると、またそれに語りや、歌、踊りが合わせられると、不思議な音楽になるのです。吟遊詩人と放浪楽師と一緒に街道沿いの町々を訪れ、辻や広場で大衆の中で歌と演奏、時には踊りも披露し、修道院で食べ物をもらい、泊めてもらったという芸人たち。それでも音楽は明るく、語りの詩も踊りも楽しいのはどうしてか。

恋の歌（失恋もあり）、お姫様に捧げる愛の歌、「かつて私は美しく」と嘆く歌、マリア様をたたえる歌、泊めてもらった修道院において食事で意地悪された歌などなど、楽器だけの演奏あり、見物人たちを魅了し、思わず笑いを誘うようなお色気のある踊りありのコンサートでした。

明るい陽光が差し込む大きな窓に囲まれたサロン、外の庭では木立が緑に輝く早春の午後。とても楽しく、優雅な音楽サロンでした。

新役員の紹介

規約に則り、自薦・他薦の候補者の中から、次の方々が2006～2007年度の役員をお引き受けくださいました。（敬称略 理事は50音順）

旧役員の皆様には、協会創立15周年記念行事をはじめとして各種の事業を成功裏に収めることができありがとうございました。この経験を活かし、これからの協会の活動にもご協力くださいますようお願いいたします。

会 長	下山 貞明	理 事	廣瀬 勝亮（事務局・スペイン語教室担当）
副 会 長	齋藤由基彦（財務・会計担当）		渡邊 昭夫（広報・会報担当）
	飯 塚 勣（事務局・渉外・企画担当）	特別理事	池本 三郎
	宮崎 紗伎（ロンダ渉外・会計担当）		西丸 興一
事務局長	山崎 宗城		柳 貞子
理 事	飯田 京子（スペイン語教室担当）		雪山 行二
	石井加奈弘（スペイン・サロン担当）	参 与	安藤 和男
	磯部 正勝（会計担当）		田野井一雄
	上野 淑子（事務局担当）		福 田 進
	久保田誠志（スペイン語教室担当）		三崎 輝夫
	武信 孝雄（広報・Web担当）	監 事	井口 孝利
	千葉 博子（スペイン・サロン担当）		小田 泰治
	寺原 瑛子（スペイン・サロン担当）		

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
（有）フレア	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-321-5638	押し花材料代10%割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

渡辺 武彦 (Takehiko Watanabe)

横浜市緑区 2006年2月18日入会

退職後、クラシック・ギターを趣味と考えており、本場スペインで、できれば学校等に入学したい希望もあり、言葉と音楽習得のため、協会を通してスペインの国情（最新の現状）・文化等を含めて情報源とさせて戴ければと思い、入会しました。

樽木 陽子 (Yoko Taruki)

横浜市港南区 2006年2月25日入会

中南米で活動していましたが、中南米に残るスペインの文化に接し、スペイン文化に興味を持ちました。スペイン語クラスに参加しながら、スペインについても知る事ができたらいいなと思っています。

小松原 敏子 (Toshiko Komatsubara)

横浜市鶴見区 2006年2月28日入会

昨年（2005年）秋に愛知万博と志摩スペイン村の旅行に参加し、会員の皆様と親しくさせていただきました。また今年の新年会の会場に私ども堂ヶ島温泉ホテルをご指名くださり、大勢の方々にお集まりいただきました。

今後横浜スペイン協会の催しに参加して、スペイン文化の素晴らしさを学べるのを楽しみにしております。よろしくお願いします。

富田 吉 (Yoshi Tomita)

三浦郡葉山町 2006年3月20日入会

5年ほど前からスペイン語を勉強していますが、スペイン事情についても関心がありますので、いろいろな情報にふれたいと思います。

***** 事務局からのお知らせ *****

◆2006年度会費納入のお願い

2006年度の会費の納入締切日を5月31日までとしますのでご協力ください。

期日までに納入が無い場合、退会されたものとみなしますが、旅行中など止むを得ない事情のある場合は、事務局までご連絡ください。

＜編集後記＞ 協会の新しい理事の方々が決定いたしました。15周年記念行事の大役を果たされて退任する理事の皆さんに感謝するとともに、新しい理事の方の活躍を期待いたします。会員と力を合わせて協会を発展させていきましょう。さて桜の季節を迎え彼の地の「さくら」に思いを馳せる頃かと思います。私事で恐縮ですが、先般池本会員のご協力により地元の町内に桜を植樹いたしました。ワシントンのボトマック河畔への桜の移植に尽力をされた「シドモア女史」に所縁のある桜です。スペインとアメリカ、そして時代の違いはありますが日本との文化的交流の先駆者に協会の活動の意義の深さを感じた次第です。（鈴木生雄）

編集委員 渡邊昭夫 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 廣瀬勝亮 牧瀬 貢 宮崎紗伎 村田 誠 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会会報係

横浜市戸塚区

次号の原稿締切は
7月10日(月)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。